(二) たくさんの漢字を関連づけて覚える

さらにつづけてこう述べました。

――「学習する漢字がふえれば、それだけ学習負担がふえる」と一般に考えられている。常識的にはいかにもそう考えられるが、じっさいにはそうではないことが、実験してみるとわかる。小学校の一年生に提出すべき漢字は、現在 46 字と決められている。ところが、わたしは過去 14 年間、この五倍から十倍に当たる 300 ないし 900 字の漢字を提出してきた。そうすると、学習負担も五倍から十倍になるはずだが、実は以前とほとんど変わりがないのである。それもわたしだけではなく、だれがやってみてもそうなのだ。漢字は、限られたわずかな字を、一字ずつばらばらに学ぶ (現在の学校の漢字学習法) よりも、関連のあるものを、たくさんいっぺんに学んだ方が覚えやすいのである――。

たとえば、今の漢字学習では、文部省の漢字配当表にしたがって、「読、売、言」という関連のある漢字を、二年、三年、四年と、三年間にわたり、ばらばらに学習しています。

こんなことをしないで、この三字を同じ学年で教えた方が効果のあることは実験済みです。わたは、一年生にこの三字を教えましたが、その習得率は、四年生の習得率よりもずっと良かったのです。

一年生の漢字が年間 46 字では、互いの間に関連のあるものがどうしても少ないのです。三、四歳の幼児でしたら、関連がなくてもよいのですが、もう理解力の出てきている一年生にこういう学習をさせると、単に覚えにくいばかりでなく、これからさらに伸びる理解力の発達を妨げる危険もあります。

わたしは、「小学校六年間に学習すべき 1000 字のうち、その半分の 500 字を一年生に提出せよ」と新聞に書きましたが、それは、記憶力の強い幼児期に最も近い一年生だからということと、このように数を多くすれば、関連のある漢字がふえて記憶しやすいからということの、二つの理由があったからです。